ボーリング柱状図

調査名 東平尾公園地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 4		調査位置	福岡市博多区東平尾公園二丁目地内			北緯	33° 58' 6342"		
発注機関	福岡市住宅都市局みどりのまち推進部みどり整備課			調査期間	平成 29年 2月 6日 ~ 29年 2月 7日		東経	130° 46' 4395"		
調査業者名	カイ・ボー 電話 (092-844-0134)		主任技師	海田 龍正		現場代理人	海田 宏光		ボーリング責任者	海田 宏光
孔口標高	KBM 52.88m	角	180° 上 90° 下 0°		方	北 0° 90° 西 270° 東 90° 南 180°		地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	
総掘進長	3.08m		試験機	東邦 D0-D			ハンマー落下用具	半自動落下式		
			エンジン	ヤママ-NFAD-8K			ポンプ	東邦 BG-3C		

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験	試験名および結果	試料採取番号	採取方法	室内試験 (掘進月日)
										深 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	N 値					
52.28	0.60	0.60		盛土	褐〜黄褐	緩い		歩道面、厚さ6cmのブロック礫混じり土砂状の土相 砕石・礫・頁岩片等を混入	現世									
51.63	0.65	1.25		風化砂質頁岩	青褐灰	硬い〜固結		風化を受け岩質劣化している所々に岩片が見られる比較的、孔壁は安定している	第三紀層 (堆積岩類)	1.15	50	50/10	150					2/6
				頁岩	青灰	固結		新鮮な岩盤で硬質となるコア形状は棒状コアで採取コアはハンマー強打で壊れる部分的に細粒砂分を含有するGL-1.25~1.60m間、砂質頁岩GL-1.75m付近、亀裂が有り循環清水では、逸水はない孔壁は非常に安定している硬岩用ダイヤモンドで掘削		2.00	50/8	50/8	188					
49.80	1.83	3.08								2.08								
										3.00	50/8	50/8	188					2/7
										3.08								

・本資料は、工事等により現況と整合しない場合があり、現在の位置関係や地質状況などを特定するものではありません。
 ・本資料は、参考データとして利用し、現在の地質状況は、再度ボーリングを行う等して確認をお願いします。